

神奈川県におけるオナガサナエの分布

岸 一弘・岸 しげみ

Kazuhiro Kishi and Shigemi Kishi:

Distribution of *Onychogomphus viridicostus* (Oguma) (Odonata: Gomphidae)
in Kanagawa Prefecture

はじめに

オナガサナエ *Onychogomphus viridicostus* (Oguma) は、神奈川県内では相模川水系、酒匂川水系及び山王川水系に分布することが知られている(大森, 1981; 佐々木ほか, 1990 など)が、1980年代後半から1990年代前半に得られた記録がそれ以前と比較して少なかったため、荻部ほか(1995)は本種を減少種に位置付けている。

筆者らは、1995年以降県内において調査を実施し、本種が従来考えられていたほど少ない種類ではないことを確認することができたので、以下に報告する。また、成虫・幼虫の生態に関しても若干の知見が得られたので、合わせて報告したい。

なお、本稿をまとめるにあたり、標本をご恵与いただいた深谷昭廣氏及び文献についてご教示いただいた守屋博文氏に感謝申し上げる。

記 録

(記録者名のないものは、すべて筆者らによる記録

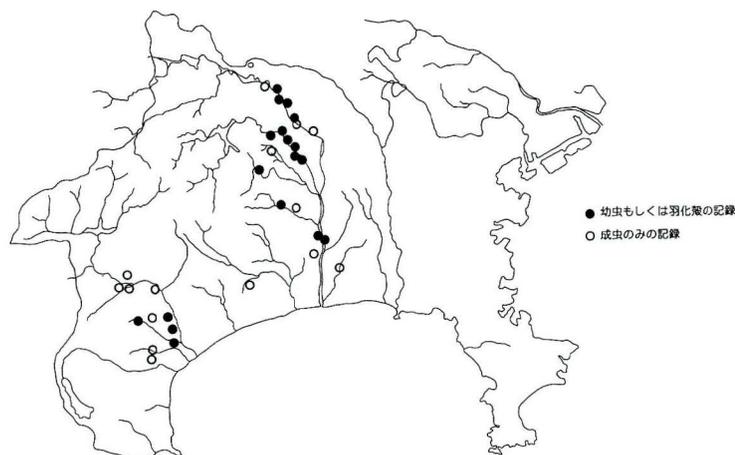


図1. 神奈川県におけるオナガサナエの記録。

である。)

[相模川水系]

1 ♂目撃・6羽化殻確認, 相模原市大島字上大島(相模川), 20. VII. 1997; 7羽化殻確認, 大島字古清水(神沢)(相模川), 20. VII. 1997; 1羽化殻採集, 城山町葉山島字藤木(相模川), 13. VII. 1995; 4羽化殻採集, 葉山島字藤木(相模川), 24. VII. 1995; 2羽化殻確認, 葉山島字藤木(相模川), 4. VII. 1996; 1 ♂目撃, 愛川町中津字大塚(相模川), 18. VIII. 1997(図6); 2羽化殻採集, 寒川町倉見(相模川), 2. VII. 1998; 7羽化殻確認, 愛川町角田字海底(中津川), 4. VII. 1996; 4羽化殻確認, 角田字海底(中津川), 29. VII. 1996; 7 ♂目撃, 角田字海底(中津川), 16. IX. 1996; 7 ♂2 ♀目撃・199羽化殻確認, 角田字海底(中津川), 14. VII. 1997(図8); 1羽化殻採集, 角田字海底(中津川), 4. VIII. 1998; 3 ♂目撃・幼虫9 exs.確認, 角田字海底(中津川), 16. VIII. 1998(図7); 1 ♂目撃・16羽化殻確認, 愛川町角田字下蓑輪(中津川), 14. VII. 1997; 1 ♂目撃(川の中の石の上でテリトリー形成), 愛川町中津字下谷(中津川), 5. VIII. 1996; 幼虫3 exs.採集・3羽化殻確認, 厚木市下川入(中津川), 19. VII. 1998; 幼虫1 ex.確認・7羽化殻確認, 厚木市三田字上三田(中津川), 5. VII. 1998; 幼虫12exs.確認・56羽化殻確認, 三田字十軒村(中津川), 5. VII. 1998; 25 ♂11 ♀羽化殻採集・1 ♂(未熟個体)1 ♀(未熟個体)目撃, 三田字睦合東(中津川), 17. VI. 1996; 1 ♂(未熟個体)目撃・171羽化殻確認, 三田字睦合東(中津川), 4. VII. 1996(図3, 4, 5); 1羽化殻確認, 三田字睦合東(中津川), 1. VIII. 1996; 2 ♂羽化殻採集・3羽化殻確認, 三田字睦合東(中津川),

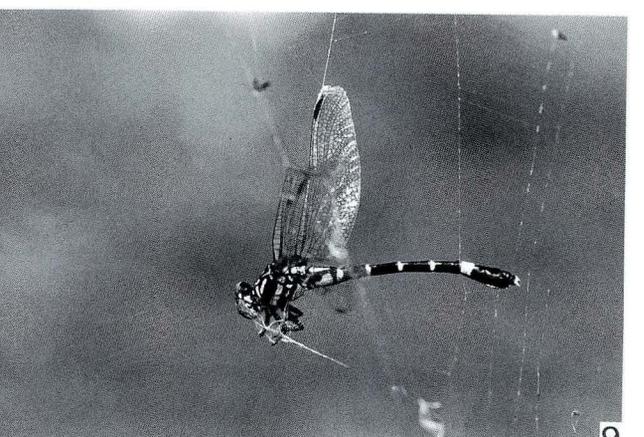


図2. 1. オナガサナエ幼虫; 2. オナガサナエ羽化殻集団; 3. オナガサナエ羽化殻; 4. 羽化直後のオナガサナエ♀; 5. コンクリートブロック上で縄張りを形成するオナガサナエ♂; 6. イネ科植物の穂上で縄張りを形成するオナガサナエ♂; 7. 水面上でホバリング中のオナガサナエ♂; 8. ナガコガネグモの巣にかかったオナガサナエ♀.

8. VI. 1997; 54羽化殻確認, 三田字睦合東(中津川), 28. VI. 1997; 1羽化殻確認, 厚木市七沢(玉川), 20. VII. 1998

[酒匂川水系]

6♂7♀羽化殻採集・1 ex.目撃(羽化失敗個体), 小田原市中曾根(酒匂川右岸用水), 24. VI. 1996; 幼虫4 exs.採集・幼虫4 exs.確認, 中曾根(酒匂川右岸用水), 15. VI. 1998; 終齢1 ex.採集・2羽化殻採集・幼虫12exs.確認, 中曾根(酒匂川右岸用水), 18. VI. 1998(図2); 幼虫2 exs.確認・9羽化殻確認, 中曾根(酒匂川右岸用水), 6. VII. 1998; 1羽化殻確認, 小田原市扇町六丁目(狩川右岸用水), 13. VIII. 1998

[発生水系不明]

1♀, 茅ヶ崎市下寺尾字西方・小出川, 4. X. 1998(図9); 1♀, 平塚市土屋字上稲荷谷, 9. IX. 1995, 深谷昭廣

分 布

佐々木ほか(1990), 佐藤(1996), 荻部(1998)及び本調査によれば, 幼虫や羽化殻が確認されているのは, 相模川水系の相模川・中津川・玉川・小鮎川, 酒匂川水系の狩川・酒匂川右岸の用水路・狩川右岸の用水路, 山王川水系の久野川で, 相模川水系と酒匂川水系には比較的広く分布していることが確認された(図1)。とりわけ, 中津川の愛川町角田字海底から厚木市三田字睦合東の範囲では, 本調査により多数の羽化殻が発見され, 中津川中流域には本種がかなりの密度で棲息していることが判明した。

成虫の出現期

佐々木ほか(1990), 佐藤(1996), 荻部(1998)や本調査などによれば, 羽化殻が確認されているのは6月上旬から8月中旬の間であるが, 記録が多いのは6月中旬から7月下旬で, この間が羽化期の中心と考えられる。7月中・下旬には成熟♂が出現し, この頃から9月中旬までが成虫の最盛期である。9月下旬以降は個体数を減じ, 10月上・中旬に没姿する。

成虫の生態

成熟した♂は平瀬の水面上に出た石の上や, 川辺の草本類などに静止して縄張りを形成する(図6, 7)。1997年7月14日(13:20~15:00), 愛川町角田字海底においての観察では, 薄曇りの天候だったせいかわ, ♂は平瀬の水面上に出た石の上に静止して縄張りを形成するだけでなく, 時折飛び立って

は水面上で比較的長時間にわたりホバリングを交えた縄張り飛行も行なうのが認められた(図8)。なお, ホバリング中の♂は, 体を前傾させ, 腹部が斜上する独特の飛行スタイルを取った。14時15分には, 川に飛来した♀に水面上で縄張りを形成していた♂が飛びかかり, 連結して遠方へと飛去するのを観察している。

上記のとおり, 茅ヶ崎市下寺尾(小出川)と平塚市土屋でそれぞれ♀成虫が得られているが, 共に発生地を特定し得ない記録である。小出川は泥底で水質汚濁も進み, 現状本種幼虫の棲息には適さない河川である。幼虫の棲息が可能な河川として, 最も近距離(直線距離: 2.4 km)に相模川が流れているので, そこから飛来した可能性が高いが, 断定はできない。平塚市土屋の場合は, 採集地付近に金目川水系の座禅川が流れているが, 小出川と同様幼虫の棲息には不適で, 金目川(直線距離: 0.9 km)もしくはより遠方の発生地から飛来したものと推測される。これらの記録は, 成熟期の♀成虫の中に発生地を離れて移動分散する個体があることを示唆している。なお, 茅ヶ崎市下寺尾で得られた♀はナガコガネグモの巣に引っ掛かっていたもの(図9)であるが, この直前に水面上を上流から下流に向かって飛行する本種らしき個体を目撃しているので, この個体が橋を避けようとして土手を上昇する際に誤って巣に飛び込んでしまったものと推測される。

幼虫の生態

県内における幼虫の記録は, 佐々木ほか(1990), 相模原市教育委員会(1992), 佐藤(1996)及び荻部(1998)による4例11exs. が知られるのみであったが, 今回の調査で, 中津川各所及び小田原市中曾根の用水路において比較的容易に幼虫を確認することができた。幼虫はステージを問わず平瀬の沈み石下に潜んでおり, 下流側に網を構えた状態で石を動かすと, 流れに押し流された幼虫が網に引っ掛かってきた。石田ほか(1988)では, 砂礫底に潜む場合もあるとの記述があるが, 筆者らが神奈川県で観察した限りにおいては, ほとんどの個体が石下に潜んでおり, 例外的に, 小田原市中曾根において移動中と思われる羽化間近の終齢幼虫が1 ex.砂礫底から発見されたのみである。このような調査法でコオニヤンマ *Sieboldius albardae* Selys の幼虫も同時に発見されたが, コオニヤンマ幼虫は淵の水底の腐食有機物の間などからも発見され, 棲息範囲はより広い。川底の石下に潜むのは, 流れの早い場所に棲息するための適応と考えられるが, 本種と同様な場所に棲息するとされるのは他にヒ

メサナエ *Sinogomphus flavolimbatus* (Oguma)が知られるだけで、サナエトンボ科としてはかなり特異な習性であると言えよう。

参考文献

- 栗飯原一郎, 1991. 県央地域を中心としたトンボの羽化殻調査 (1990年). 湘南昆虫, (2):37-42.
- 苅部治紀・岸 一弘・大森武昭, 1995. トンボ類. 神奈川県レッドデータ生物調査報告, pp. 187-198. 神奈川県立生命の星・地球博物館.
- 苅部治紀, 1998. 県内における近年のオナガサナエの記録. 神奈川虫報, (122):5-6.
- 石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊, 1988. 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説, p.67. 東海大学出版会, 東京.
- 松木和雄・新井 裕, 1970. 神奈川県のトンボ資料. 神奈川虫報, (33):2-56.
- 小口岳史, 1994a. 南足柄市内川流域のトンボ類. 湘南昆虫, (6): 28-33.

- 小口岳史, 1994b. 南足柄市のトンボ類. 湘南昆虫, (6):47-52.
- 小口岳史, 1995. 酒匂川流域のトンボ類 (第1報). 湘南昆虫, (7):1-17.
- 大森武昭, 1981. 神奈川県産トンボ類調査報告. 神奈川県昆虫調査報告書, pp. 157-177.
- 相模原市教育委員会, 1991. 相模原の昆虫—相模原市産昆虫類目録第2報—, 86pp.
- 相模原市教育委員会, 1992. 相模原の底生動物, 64pp.
- 佐々木彰・平子順一・岸 一弘・苅部治紀, 1990. 神奈川県のトンボ相Ⅱ. 神奈川虫報, (92):3-40.
- 佐藤正幸, 1996. 小鮎川水系におけるトンボ類幼虫の記録. 湘南昆虫, (8):1-10.
- 高橋一公・小口岳史, 1994. 小田原市山王川流域のトンボ類. 湘南昆虫, (6):23-27.
- 高橋一公, 1995. 山王川のトンボ類目撃記録三題. 湘南昆虫, (7):25.

(岸 一弘:茅ヶ崎市文化資料館,岸しげみ:藤沢市石川488-1ミストラル湘南A-101)